

令和3年度 中野区立第二中学校 経営方針【重点】

中野区教育大綱より

社会のあり方や人の生き方、価値観などが大きく変化する中であって、人として守るべき根幹的な価値を大切にしつつ、時代の変化を適切に受け止め、より良い社会に向けて変化をリードする人材を育むことが、これからますます重要になってきます。こうした観点を踏まえ、「基本理念」や「中野の教育がめざす人物像」、「中野の教育のありかた」について、区長と教育委員会が協議を重ね、さらに意見交換会やパブリック・コメント手続でいただいた意見などを参考に、以下のとおり教育大綱を取りまとめました。

1 基本理念

5つの基本理念に基づいて教育施策を推進します。

- ・教育の充実・発展に努めるために、区政の全ての面を通じて施策の連携を図ります。
- ・知徳体のバランスを重んじ、多様な体験と実践による学びを推進します。
- ・自己学習、相互学習の二つの面を大切にし、自ら学ぶ力を養います。
- ・一人ひとりがその個性に応じた成長の機会が得られるよう環境整備と適切な保護・支援を行います。
- ・子どもたちの成長を見守り、支える家庭・地域・学校・関係機関の協力を進めます。

2 中野の教育がめざす人物像

この大綱では、「中野の教育がめざす人物像」として以下の4つを定めます。

- ・自らの力で道を切り拓く、進取の気概を持った人
- ・多様な人間性を認め合い、思いやりにあふれる人
- ・公德心に富み、社会に役立つ人
- ・家族、わがまち、そして自らの祖国を愛する人

3 中野の教育のありかた

中野の教育がめざす人物像を育むことを目標として、5つの柱で取り組みを進めます。

- ・未来を拓く力を育む教育
- ・多様性を理解し、自他を認め合う社会を目指す教育
- ・主体的な健康づくり・スポーツ実践に結びつく教育
- ・社会を築く力を育む教育
- ・確固とした価値観を育む教育

中野区教育ビジョンより

1 教育理念と目指す人物像

《教育理念》

「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」

- ◆子どもたちは自分の可能性を伸ばし、豊かな人間性・社会性や確かな学力、健康・体力などの「生きる力」を身に付けている
- ◆一人ひとりが自立し、地域社会の一員として、生きがいをもって生活をしている

《目指す人物像》

- ◆自らの力で道を切り拓く、進取の気概を持った人
- ◆多様な人間性を認め合い、思いやりにあふれる人
- ◆公德心に富み、社会に役立つ人
- ◆家族、わがまち、そして自らの祖国を愛する人

2 教育理念を実現するための視点

- ①「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた教育
- ②自ら考え、学び、行動する人材を育成する教育
- ③一人ひとりを大切にす教育
- ④幼児期からの連続した教育
- ⑤家庭・地域・学校の連携による教育

《教育ビジョンの目標体系と今後5年間の取組の方向性》

- 目標Ⅰ 人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている
- 目標Ⅱ 子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている
- 目標Ⅲ 自他の生命や人権を尊重する教育が行われ、さまざまな体験活動を通じて、子どもたちの豊かな人間性・社会性が育っている
- 目標Ⅳ 子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている
- 目標Ⅴ 保幼小中の連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちは生き生きと学んでいる
- 目標Ⅵ 地域における学習やスポーツが活発に行われ、活動をとおしての社会参加が進んでいる
- 目標Ⅶ 子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術に親しみ、生活の質を高めている

I 令和3年度中野区立学校における学校教育の指導目標

I 指導目標

子どもたちが生きていくこれからの社会は、超少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む中、人工知能（AI）の飛躍的発展や新型コロナウイルスの蔓延がさらに拍車をかけ、社会構造や生活様式が急速に変化するなど、まさに「予測困難な時代」の中にあると考えられている。そのような社会を生きていく子どもたちには、一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていく力を身に付ける必要がある。このことは豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育成することにつながる。

そこで中野区立幼稚園及び小・中学校（以下「学校」と表記する。）では、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」という中野区教育委員会の教育理念のもと、これまで中野区の学校が積み重ねてきた教育成果を継承・発展させながら、新しい時代の学校教育を創造し、以下の目標の実現を図っていく。

- 中野区立学校がこれまで積み重ねてきた、豊かな心、確かな学力、健やかな体からなる「生きる力」をバランスよく育む教育を一層充実させることにより、子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力の基盤をつくる。
- 学習指導要領の理念や、ICT機器を活用した新しい教育方法や教育環境を積極的に取り入れ、**ニューノーマルの学習モデル**を実現していくことなどを通して、新しい時代を見据えた中野区の学校教育を創造していく。

II 基本方針

1 時代を越えて受け継がれる教育のさらなる充実と発展

学校の教育活動全体を通して、知・徳・体の力をバランスよく育む。特に生命を尊重し、人権尊重の理念を正しく理解させ、思いやりの心や規範意識、社会の一員としての自覚や態度を育てる。

(1) 自他の生命を重視した人権尊重教育の推進

- ①生命の大切さや尊さ、生きることのすばらしさを理解させ、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、一人ひとりのよさや多様性を認め、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育てる。
- ②性別、人種等の違いや感染症に関する偏見や差別をなくし、一人ひとりの人権を大切にすることを育て、主体的に社会に関与する態度を養う。
- ③一人ひとりに応じた適切な指導及び必要な支援を行うとともに、障害のある幼児・児童・生徒等への理解を深め、共に学び合い生活する中で、共生社会の基盤となる資質や態度を育てる。

(2) 生きる力を育む教育の推進（上記以外）

- ①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、一人ひとりのよさや可能性を伸ばす教育を一層充実させ、他者と協働して課題を解決しようとする態度を育てる。
- ②体育・健康に関する指導を一層推進し、体力向上や自ら健康を保持増進する意識・実践力を育てるとともに、心と体の健康づくりに主体的に励む態度を育てる。

2 新しい時代の学校教育の創造

新しい時代を見据えた学習指導要領の理念やGIGAスクール構想の目指していることを実現することにより、子どもたちに様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となるために必要な生きる力を育む。

- ① **カリキュラム・マネジメント**等の視点を生かし、児童・生徒及び学校の実態に応じた授業の改善に努め、地域・家庭との連携し、**社会に開かれた教育課程**の実現を図り、教育活動の質の向上に努める。
- ② **グローバル人材**として必要な国際感覚、やさしさや思いやりの心、公德心、正義感などを養い、主体的に自らの生き方を考える態度を育てるとともに、多文化共生社会の中で生きる豊かな人間関係を築く力を育む。
- ③ **幼児期から小・中学校までの15年間の発達・成長を見据えて**、幼稚園・保育施設等、小学校及び中学校が教育内容や指導方法等について相互に理解を深めるとともに、幼児・児童・生徒の交流等の機会を充実させながら学校段階間の円滑な接続を図り、幼児・児童・生徒がその発達の段階に応じて継続的に「生きる力」を身に付けられるようにする。
- ④ **ICT機器を活用した学習とこれまでの学習活動**を組み合わせ、個別学習と対面学習を効果的に融合させた**ニューノーマルの学習モデル**を展開することにより、一人ひとりの資質・能力が一層確実に育成できる教育を実現する。

III 令和3年度の重点

1 豊かな心を育む教育の充実

発達の段階に応じて人権教育及び道徳教育を一層充実させ、自他の生命を相互に尊重し合い、多様性を認め合いながら共に生きていこうとする豊かな心の育成及び人間関係づくりに努める。

2 安心して生活できる学校の実現

新しい中野区いじめ防止基本方針の趣旨を受け、いじめの未然防止に向けて道徳教育の充実や体験活動の一層の推進を図り、豊かな人間性や社会性を育むとともに、**一人ひとりの心に寄り添ったきめ細やかな指導**を徹底し、いじめの早期発見・早期対応を継続的・組織的に行う。また、可視性が難しいネットいじめは、早期発見が困難な状況にある。**情報モラル教育の充実**を図るとともに、家庭に対する相談窓口等に関する情報提供や啓発をより一層強化し、**SOSの出し方に関する教育**の充実を図る。

3 一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の実現

GIGAスクール構想など教育のICT化の目的は、単にICT機器を使うことではなく、一人ひとりの児童・生徒の状況に応じた学びや主体的・対話的で深い学びを推進することにより、児童・生徒の力を最大限に引き出すことであることを、まずは校内で共通理解する。その上で、一人一台端末を活用し、ICT機器を用いた学習と従来の学習活動を組み合わせ、個別学習と対面学習を効果的に融合させた**ニューノーマルの学習モデル**の実現を目指した授業改善を推進するとともに、その指導・評価について年間計画に位置付けていく。

4 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

家庭や学校での個別学習においては、ICT機器を積極的に活用し、一人ひとりの児童・生徒の学習状況に合わせた基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る。また、学校での対面学習においては、**協働的な問題解決の場面**などを通して、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを推進し、思考力・判断力・表現力等を育むとともに、学びを人生や社会に生かそうとする姿勢や態度を身に付けさせていく。

5 15年間の学びの連続性の確保

新しい「中野区の保幼小中連携教育」の計画に基づき、これまで取り組んできた、公私を越えた保幼小連携や、各中学校区における小中連携を一層充実させ、幼児・児童・生徒の交流や教員の相互理解を促進するとともに、知・徳・体と特別支援教育の4つの視点による、保幼小中の学びの連続性に着目したカリキュラムの連携研究を推進していく。各校においては、各学校段階における発達の段階や学びの連続性を踏まえた系統的な教育課程を編成し、意図的・計画的・具体的な教育活動を展開する。

6 社会に開かれた教育課程の実現

幼児・児童・生徒や学校、地域の実態に応じて、家庭地域をはじめ学校を取り巻く社会との連携を図りながら、これまで培ってきた教育活動を継続・発展させていくとともに、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けて、地域資源の活用や外部機関と連携した学習内容を展開するなど、社会に開かれた特色ある教育活動が展開できるよう創意工夫のある教育課程を編成する。

7 グローバルに活躍する人材の育成

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができるよう、学校段階間の接続を意識した積極的な授業改善に努めるとともに、外部人材の活用や資格取得の促進等により意欲の向上を図り、グローバル化が進展した社会の様々な場面で必要となる外国語によるコミュニケーション能力の向上に努める。

8 健やかな体と健康で安全に生活する力の育成

望ましい生活習慣や運動習慣の確立と体力・運動能力の向上に向けた取組を充実させるとともに、児童・生徒が感染症等について正しく理解し主体的に健康管理に努めるなど、生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るために必要な資質・能力の育成に努める。

9 学校2020レガシーの構築

東京2020大会の開催を踏まえ育んできた、これからのグローバル社会に求められる5つの資質（①ボランティアマインド ②障害者理解 ③スポーツ志向 ④日本人としての自覚と誇り ⑤豊かな国際感覚）の中から、東京2020大会以降も引き続き育む活動を「学校2020レガシー」として1つ以上取り上げ、各校の特色ある教育に位置付け継続・発展させ、大会終了後、さらにその先の社会で活躍するために必要な力を身に付ける教育を推進する。

【第二中学校の教育目標】 → 変更

中野区教育大綱、中野区教育ビジョン、中野区教育委員会の教育目標の精神のに基づき、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力をはぐくむとともに、規範意識の高い、心身ともに健やかな生徒の育成を目指す。

〔自律、尊重、創造、挑戦〕

- ◇自ら考え、判断し、行動する生徒の育成
- ◇違いを理解し、他者を尊重する生徒の育成
- ◇豊かな発想をもち、創意工夫する生徒の育成
- ◇変革やチャレンジをし続ける生徒の育成

「未来を切り拓く（創り出す）子供たち」に、必要な力は何か？
その力を培うために、必要な体験・経験は何か？

旧 教育目標

- ◇学習に励む
- ◇自己を見つめる
- ◇相互に高め合う
- ◇体力をつける

〔校長としての所信〕

将来の変化を予測することが困難な時代に、自らの人生を切り拓き、生涯を生き抜く力を子供たちに培っていくことが求められている。〔社会の入り口としての学校〕

◆学校で「何を体験させるのか」

◇人が集まれば、人の好き嫌い、馬が合う合わないなど、友人関係を巡る問題は、大人でもある。中学生として、偶然集まった人々と、一定の人間関係を構築し、その集団で一定以上のパフォーマンスを上げることが出来る集団であることが肝要である。リーダーを引き受けてくれた人を中心に協力し、リーダーも集団に対して気遣いをする。

◇上級生は、下級生よりもいろいろなことができる。部活動等で、下級生が早く来て準備をする、残って後片付けをするなどの悪しき習慣を排除し、率先垂範、上級生が早く来て、下級生に指示をしながら準備をし、効率よく後片付けをする。試合に行く際の荷物も、上級生が管理する。このようにより効率的な部活運営を上級生が下級生に教え、伝えていき、先輩・後輩の信頼関係を構築する。（スポーツ等の技能が高いことよりも、部活動全体に気を配り、リードしていくことができる上級生が尊敬されるよう指導をする。）

これらは、委員会や行事においても同様。

◆生徒に伝えたい“5つの勇気” ➡ 健全な心の成長を図るために！

- ◇「真実を隠す努力より、真実を語る勇気」
- ◇「避ける努力より、ぶつかる勇気」
- ◇「強き者に好かれる努力より、弱き者に手を差し伸べる勇気」
- ◇「言い訳を探す努力より、素直に謝る勇気」
- ◇「耐える努力より、吐き出す勇気」

〔目指す学校像〕信頼と誇りに基づいた、活力と落ち着きのある学校

- ◇教師、生徒、保護者、地域が誇れる学校
- ◇区民に信頼される学校
- ◇区民と共にある学校

**〔教職員像〕 授業力・指導力、情熱・使命感、実行力のある教員
専門性が高く、迅速に行動する職員**

◇生徒の笑顔を第一に考える

→ 子供が充実感、達成感を得られるよう最大の努力をする。

※その行動は、生徒の気持ちになって考えただろうか

◇いつでも“笑顔”を忘れない

→ 私たちの“笑顔”が、生徒たちの“笑顔”をつくる。

※その行動は、生徒の最高の笑顔を引き出せるだろうか

◇感謝の気持ちを常にもつ

→ 感謝の心が自分を謙虚にする。

※その行動は、周囲の人に感謝の気持ちが伝わるだろうか

◇常に改善・向上を目指す

→ 現状に満足せず「どうすればできるか」を考え、実際に行動する。

※その行動は、可能性に挑戦し、

「どうすればできるか」と前向きに考えただろうか？

◇法令を順守し、正直で誠実な行動をする

→ 日々の行動が学校の信頼を高めることを自覚する。

※その行動は、法律や道徳に違反していないだろうか？

生徒たちに見せられるだろうか？

【経営の重点】・・・今年度の重点

「**二中を世界に誇れる学校にしよう!**」を合い言葉に、生徒とともに学校生活の見直しを図る。また、これからの**未来を切り拓く力**を生徒に培って行くことを意識し、授業等の改善に取り組む。

◆GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール対応〔授業改善〕

「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に**個別最適化され**、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」ために・・・

- 生徒一人一人がタブレット端末を“文房具のように使用する”ことを前提とした授業を構築する。(インターネットで調べるなどではない)
- 意見等の共有や**協働学習**を行う道具としてタブレット端末を活用する。
- 生徒が、自分で学ぶことができるコンテンツを使用する(学びを止めないための準備)

◆学習評価の改善〔「妥当性」、「信頼性」のある評価〕

- 4観点から3観点到整理された。

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」

→「**知識・技能**」、「**思考・判断・表現**」、「**主体的に学習に取り組む態度**」

これらに対し、適正な評価材料を収集するところから、見直し構築する。

特に「**主体的に学習に取り組む態度**」の評価材料は、目的に鑑み精選する。(宿題の提出状況や忘れ物の数ではない。また、指導をしていないのでは評価することもできない。) ※評定に総括する際は必ず「1:1:1」となる。

◆学校生活の改善〔**生徒会を中心とした校則等の見直し**〕

- 生徒自らが、学校生活を見直し、改善する意欲を大切に。不要なルール等は廃止、改善すべきものは**きちんとした手続き**をとって、変更していく。
本当に、「このルールは必要か?」「このルールは合理的か?」
勝手な解釈や勝手にルール違反しないことを大切にしたい。

◆特別支援教室の運営

- 週1回程度の巡回指導が開始される。(中野中学校の教員)
それ以外の4日間において、特別支援教室にどのような機能を持たせるか。
 - ・保健室登校等、不登校対応 →**オンライン・フリースクールもその1つ**
 - ・発達障害の生徒のケア →**心の教室相談員との連携**
 - ・心の弱い生徒のケア

◆不登校生徒対応

- 国の対応スタンスが切り替わった〔**教育機会確保法**〕ことに鑑み、N中等の外部機関に登校する生徒への支援及び外部機関との連携を充実する。

◆小中連携教育

- 学力向上をテーマとし、算数・数学、外国語は具体的な連携の上、取り組む。さらに、様々な教科で、**心理学・脳科学を効果的に活用し**、学力の伸長を実現する。

◆コミュニティ・スクール〔学校運営協議会及び地域学校協働本部の設置〕への準備

- 社会に開かれた教育課程の実現のためにも必要

二中は、「**世界へ羽ばたく人材の育成**」をスローガンに、PTA、学校評議員とともに、地域の核として「世界に視野を向け、地域に貢献することができる人材」を育成する。『地域や学校を誇りとする生徒』、『多様な価値を理解する生徒』の育成に重点を置き、教育活動を行うとともに、今後の中野二中の10年の方向性を定めていく。

<昨年度からの引き続きの課題>

- ◆教職員の働き方改革の推進（中野区教育委員会）
- ◆施設整備計画の準備〔令和4（2022）年基本構想／計画〕 →残念ながら延期
- ◆学習指導要領全面実施と評価・評定に対する信頼度の向上
 - 社会に開かれた教育課程の実現
 - カリキュラムマネジメント
 - 主体的、対話的な深い学びの実現〔授業改善〕
 - 基礎学力の定着と学力向上と指導と評価の一体化〔評価の明確化〕
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - ・思考力、判断力、表現力等の育成
 - ・学びに向かう人間性〔自ら学び自ら考える力及び学ぶ意欲の醸成〕
 - 総合的な学習の時間の改善
 - ・総合的な学習の時間の新カリキュラムの策定
 - ・PBL（プロジェクトベースドラーニング）スタイル〔問題解決型学習〕
 - ・生徒一人一人が自分自身で納得解を得るまで研究しているか
- ◆心の教育・健全育成
 - 生徒主体の活動
 - いじめや不登校などの問題の未然防止、早期解決
 - 共生社会の実現（I組との交流）
- ◆地域・保護者との連携
 - 社会に開かれた教育課程
 - 開かれた学校づくり
 - 小中連携
- ◆特別な支援を必要とする生徒の指導
 - 巡回相談等関係諸機関との連携
- ◆特別支援教育の充実〔I組の教育課程の充実〕
 - 障害者のキャリア教育
 - 特例子会社等との連携およびキャリア教育の視点から教育課程を見直す

◆情報戦略

- ホームページ
- 学校だよりの充実
- SNSの活用
 - ・行事等の即時公開
 - ・

<学校が行う教育活動を示す3つの言葉>

中野二中の「教育における基本的方向性および生徒の資質・能力を育成するための環境整備」としての考え方を示すために、端的な表現として「心と体を鍛える」、「学びを究める」、「人、地域にかかわる」の3つのキーワードを用いる。

「心と体を鍛える」

- 生き抜く力を育む学び
 - 責任感のある社会人として自立できる教育の推進
 - 主体的に挑戦する態度の育成

- 生徒の心身の健康
 - スクールカウンセラーによる個別全員面談の実施
 - いじめアンケート調査の実施
 - 特別な支援に係る人材の活用
- 教職員の心身の健康（働き方改革の推進）
 - 会議の精選 ○勤務時間に対する意識の向上 ○年次有給休暇の取得率向上
 - 保護者・地域への周知
- ◆教育相談活動

生徒との話の内容は、各教員一人一人に任されている。単発なかかわりではなくそのことをきっかけとして、継続的に応援していくように声かけするよう望む。
- ◆キャリア教育
- ◆国際理解教育
- ◆障害者理解教育
 - ◇I組との共同学習・交流活動をとおして、共生社会の実現を目指す。
- ◆体力向上
 - ◇体育活動の充実 運動会、連合陸上競技大会、運動部活動等
 - ◇健康教育の充実 保健室の機能充実、薬物乱用防止教室、
家庭との連携、学校保健委員会
 - ◇食育の推進 安全で美味しい給食、交流給食、家庭との連携等

「学びを究める」

- 知・徳・体を育む学び
- 地域社会で支え合う学び
- 教職員の指導力向上
 - ◆「教科ノート指導」を充実するため、生徒の優れたノートを掲示する。
 - ◆「表現する活動の充実（話す、書く）」を維持・継続する。
 - ◆「英語検定・漢字検定・数学検定チャレンジ」を推奨する。
 - ◇3年間で資格を取得するよう、生徒や保護者に呼びかけるとともに、実施時期を早めに調整するとともに、勉強会を行うなど受験しやすい環境を整える。
 - ◆学んだことが将来の学びや研究、社会とつながっていくよう「学びの深化」を図る。
 - ◇大学との連携による授業
 - ◇企業との連携による授業

「人・地域にかかわる」

- 家庭との連携
 - 保護者への迅速な連絡と情報共有による共通理解
 - 評価・評定 説明会の実施 ○進路説明会の実施による情報提供
- 外部との連携
 - PTA、学校評議員と連携した学校運営の推進 ○ボランティア活動の推進
- 学校教育活動の公開
 - 学校ホームページ・ブログ・SNSの随時更新
 - 学校・学年だより等、各種たよりの充実

【学力向上】

「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」（学校教育法 義務教育の目標より）に基づき、全生徒の学力向上を目指す。特に、すぐに正解か不正解か判断できる知識や技能等以上に、多様な解答がある課題に対する学力の育成について学校全体で取り組む。

【キャリア教育・進路指導】

- ◆生徒が将来に向けて、希望をもち自己実現を図っていく基盤を育てる。
 - ◇「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」
 - ・1～2年生でも、進学に関する情報を三者面談で取り扱う。
 - ・2年生の夏休みの宿題に、高等学校のオープンキャンパスのレポートを課す。
 - ◇特別活動の充実
 - 学級活動、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通じて、
 - ◇3年間を見通した進路指導 ➡ キャリア教育の3年間の指導計画を示す！
自分を知る、職業を知る、上級学校を知る
 - ◇連続3日間の職場体験学習（中学2年生）

【健全育成】

- ◆思いやりのある豊かな心をもつ生徒の育成
 - ◇生徒の内面に響く指導の徹底
 - 生徒の話を聞く・諭す・導く・認める指導
 - ◇自他の生命を大切に作る指導の徹底
 - いじめを絶対に許さない！学級でのよりよい人間関係づくり等
 - ◇道徳指導の充実〔道徳的実践力を高める道徳指導、生徒の心に響く教材の開発等〕
 - ◇読書教育の充実〔朝読書の充実〕
- ◆心身共に健やかでたくましい生徒の育成
 - ◇基本的生活習慣の確立〔あいさつ、礼儀、服装、時間を守る、等の指導の徹底〕
 - ◇教育相談活動の充実〔スクールカウンセラー（SC）の活用〕

【中野二中を開く】

- ◆保護者・地域に開かれた学校づくり
 - ◇PTA、学校評議員との連携
 - 学校経営について協議し、今後の10年を見据えた学校の方向性を見定めていく。また、情報を公開し、透明性を担保する。
 - ◇インフォメーション機能の充実
 - ・土曜日授業、道徳授業地区公開講座、学校行事等への出席率を向上させる
 - ・保護者との連携〔連絡を密に、誠意ある保護者対応、保護者会・三者面談等〕
 - ・学校からの情報発信
 - 「学校だより」、「学年だより」、「保健だより」、「給食だより」等の発行、
 - 学校ホームページ、学校掲示板、SNS等の活用等

- ・受付、接遇の向上
 - 分かりやすいインフォメーション、手入れの行き届いた施設・設備、
- ◇PTAや地域の活動への積極的参加
 - PTAとの連携、地域の行事への積極的参加

【学校経営の基盤となる方策】

◆教職員の資質・能力の向上

- ※書類の提出等、公務員として当たり前の業務をきちんとこなす。
- ◇教員、事務、用務、各員のキャリアプラン
- ◇校内研修の推進による授業力向上
 - 校内研究体制の整備、研究授業（全教の授業観察の中、最低1回は実施）
 - 中教研の研究活動、都・区の研修への参加、自主研修等
- ◇小中連携教育の推進（地域の子供として、一人一人の成長を最大限保証する）
 - 小中連携の日における取組

◆特別支援教育の推進

- インクルーシブ教育への意識の変革
- ◇校内体制の整備
 - 特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育校内委員会の運営
- ◇特別な支援を要する生徒への学習支援
 - 学習指導員・特別支援教室の活用、個別指導計画の作成、
 - 保護者・関係諸機関との連携等

◆生徒の安全確保と危機管理

- ◇事件・事故防止の徹底
 - 交通安全旬間への協力、安全指導の徹底、セーフティ教室
 - 来校者の確認、校内巡視、夜間・休日の警備等
- ◇事件・事故発生時の対応
 - 緊急対応マニュアル、アレルギー対応マニュアルの徹底、教育委員会等との連携

◆機動的な組織による円滑な学校運営の推進

- ◇職種・職層を超えての協働意識の徹底
 - 分掌・学年での主幹・主任を中心とした組織的取組、
 - 全教職員による共通理解・共通実践、報告・連絡・相談の徹底
- ◇主幹教諭・主任教諭の学校運営参画
 - 学校運営委員会（週1回）、主幹教諭・主任教諭からの積極的企画・立案等
- ◇校務主事の学校経営参画
 - 財務管理、施設管理等における積極的な企画・立案等
 - ①校内環境の計画的な整備 ②予算案の迅速な立案
 - ③老朽化した備品の計画的な買い替え案の立案

◆生徒、保護者、地域から信頼される、魅力ある学校づくり

- ◇学校の透明性の確保
 - 学校の説明責任を積極的に果たす
- ◇公務員としての自覚と資質の向上
 - サービスの厳正とサービス事故防止の徹底、個人情報保護の徹底、
 - キャリアプランに基づいた自己研修等